

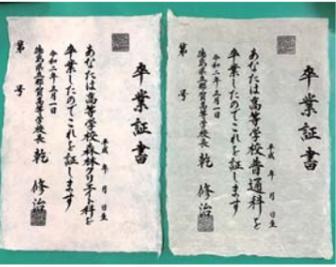
徳島県立那賀高等学校

せせらぎ新聞

第68号

発行/那賀地域中高一貫教育
研究委員会事務局
(徳島県立那賀高等学校内)
電話: 0884-62-1151
FAX: 0884-62-2590
那賀高校ホームページURL
http://naka-hs.tokushima-ed.jp/

第68回卒業証書授与式



3月1日(日)、第68回卒業証書授与式が、ご来賓・保護者のご臨席のもと、厳かな雰囲気の中で挙行されました。新型コロナウイルスの影響で規模が縮小された形での式となりましたが、卒業生69名は、ピンクのガーベラのコーサージュを胸に飾り、晴れやかな表情で式に臨みました。

卒業証書授与では、担任が一人一人呼名し、卒業生は三年間分の思いを込めて大きな声で返事をしました。そして、普通科51名の総代理近藤憂叶さん、森林科クリエイト科18名の総代理四宮龍太郎さんが登壇し、凛とした表情で、学校長より卒業証書を授与されました。

授与されたのは自らの手で漉いた拝宮和紙の卒業証書。12月の寒中、冷たい水と格闘しながら3年生全員で拝宮和紙の制作に取り組みました。何度も漉き直して完成させた、思いの詰まった卒業証書となりました。



式辞の前に、学校長がこの度の新型コロナウイルスの影響により、卒業式の規模が縮小されたことについてふれられ、式辞では、「このような変化の激しい状況であるからこそ、遅く生きていくために自ら学び続けてほしい。また、未だ見つけていない自分を発見し、磨きかける努力をしてほしい。」と説かれました。

式は厳粛な中にも、温かみを感じる雰囲気を感じながら進んでいきました。そのような中、在校生代表として生徒会長の岩野李実花さんが送辞を述べました。那賀高祭など、卒業生とともに過ごした時間を振り返り、卒業生への感謝の思い、そして那賀高校の伝統を受け継いでいくという決意も語ってくれました。

続いて卒業生を代表して井上京香さんが答辞を述べました。三年間を振り返り、支えてくれた人々への深い感謝と、友達と過ごした時間の素晴らしさについてふれ、最後に「那賀高校で培った力をこれからの糧とし、自分の道を自分の力で切り拓いていきます。」と一言一言かみしめるように決意を語る姿に、会場全体が感動に包まれました。

余韻が残る中での卒業生退場では、正・副担任に向かって大きな声で挨拶し、鳴り止まぬ拍手の中、式場を後にしました。

その後、各教室で、保護者の方々にも参加していただき、最後のホームルームを行いました。担任から一人一人に卒業証書が手渡され、さらに、正・副担任から最後のメ

ッセージが贈られました。最後のメッセージを真剣に聞く姿は、凛々しく輝いていました。温かい雰囲気にも包まれた、充実した時間となりました。

第68回卒業証書授与式は、例年とは異なり、在校生が出席しませんでした。旅立ちを祝福する気持ちに溢れた、心に残る感動的な卒業式となりました。この那賀高校でたくさんの人々に出会い、多くのことを学び、心身ともに成長した卒業生たち。この日を迎えられるのは、本人の努力はもちろんのこと、家族や友人をはじめ、多数の方々の支えや協力のおかげです。心から感謝を申し上げます。そして、ご多忙の中、ご臨席いただいたご来賓の皆様、本当にありがとうございました。

卒業生の皆さん、卒業の喜びを胸に、力強く未来を切り拓いていってください。

皆さんの将来に幸多からんことを、お祈りしています。



予餞会

1月31日(金)、本校体育館にて予餞会が行われました。生徒会長の挨拶を皮切りに、映画『アラジン』の鑑賞や、教員が中心となって作成した「思い出ムービー」の鑑賞などを行い、楽しい時間を過ごしました。特に「思い出ムービー」では、旧職員からのメッセージや、3年間を振り返る数々の写真など、笑いあり涙ありの、互いの心が通い合う素敵な時間を過ごすことができました。3年生にとって最後の良い思い出となりました。

卒業生の主な進路決定先&メッセージ

進学

徳島大学
私は1年生の頃から目標を持ち、目標のために苦学することも積極的に取り組むなど、様々な場面で努力してきました。高校の3年間はあっという間に終わってしまっています。皆さんも、日々目標に向かって頑張ってください。

東京農業大学
3年間はあっという間に過ぎていきます。大変なことや苦しいことなど、いろいろあると思いますが、何事にも積極的に挑戦し、自分を高める努力を続けていってください。一日一日を大切に過ごして頑張ってください。

徳島文理大学
この3年間、素敵な友達や先生方にめぐり会い、たくさんの思い出を作ることができました。支えてくださる方々に感謝の気持ちを忘れず、残りの高校生活も思いきり楽しんで、将来の夢へと向かって全力で頑張ってください。

徳島医療福祉専門学校
特に目立った活動をしていなくても、努力すること、継続することができれば、自分が思い描いた以上の成果を得られるかもしれません。自分を助け、成長させてくれる人々に常に感謝の気持ちを持ち、努力は結果となって表れるということを忘れず頑張ってください。

専門学校 穴吹カレッジ
私は、新しい第一歩を踏み出すことに少し不安を感じています。しかし、那賀高校で学んだことを思い出し、前に進んでいこうと思います。皆さんも、自信を持って前進できるような、何事にも真剣に取り組む有意義な高校生活を送ってください。

四国産科衛生士学院専門学校
高校での3年間は、長いようで短いものです。私は2年生になったから勉強と部活動の両立を特に意識して目標に向けて頑張ってきました。皆さんも早く自分のやりたことを見つけて、目標に向かって頑張ってください。応援しています。

就職

大塚製薬株式会社
高校生活は長いようで短いものです。その中でたくさんの方に挑戦して、初めてのことも恐れずに取り組んでみてほしい。絶対にやって良かったと思える時が来ます。先生方、3年間本当にありがとうございました。

兵庫県警察
たくさんの方に支えられ、今の自分があります。常に感謝の気持ちを忘れることなく、仕事に励んでいきたいと思います。私は立派な警察官になり、兵庫県民の安心・安全を守ります。

日本郵政株式会社
高校生活はあっという間に過ぎていきます。今振り返ると、「あの時こうしておけば良かった」という残りりが私にはあります。だからこそ、これからは一日一日を大切に、社会人として何事にも精一杯努力していきたいと思っています。今までお世話になった方々に感謝し、少しでも成長した姿をお見せできるように、日々努力していきたいと思っています。

エヌ・アンド・イー株式会社
今までありがとうございました。この3年間の生活を無事に過ごすことができたのは先生方のおかげです。これからも那賀高校で学んだ知識や技術を活かして、職場で頑張りたいと思っています。お世話になりました。

有限会社 原電氣
那賀高校で学んだことを活かして頑張っていきたいと思っています。また、今まで育ててくれた家族や先生方に感謝し、社会に貢献できるようにしっかりと働きたいと思っています。先生方、お世話になりました。

社会福祉法人 東会 特別養護老人ホーム ヒラサキ
3年間の高校生活は、本当にあっという間です。どのような時も、決して無駄な時間はありません。思い出の一つ一つが大切な宝物になります。今を大切に過ごしてください。今の自分があるのは周りの方々のおかげです。感謝の気持ちを忘れず、地域に貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

「まなぼうさい活動賞」受賞

1月19日(日)に、「那賀町ボランティアのついで」が相生林業ビジネスセンターで行われ、地域ボランティアの方々とともに、「なかなかおいしい防災レシピ集」から梅昆布そば米ご飯、高野豆腐と肉団子の煮もの、金時豆と豆乳のケーキを作りました。大変楽しく、調理と試食をすることができました。このような那賀高校防災クラブの活動が評価され、「令和元年度 徳島県まなぼうさい活動賞」を受賞しました。1月22日(水)にあわぎんホールで行われた「まなぼうさい活動賞表彰式」において、飯泉知事より表彰状が授与されました。本校の防災に関する活動は、年々充実してきています。地域の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。今後も、防災クラブの活動をより一層活発にしていきたいと思っております。



★令和元年度防災に関する取組★

7月12日	防災訓練、簡易担架づくり 防災講演会(講師 徳島大学 准教授 田村隆雄先生)
7月25日	中学生防災クラブ交流イベントでの防災食作りと取組紹介
7月26日	高校生防災クラブ交流イベントでの防災食作りと取組紹介
7月30日	防災プログラムに参加(相生中央公民館)
9月28日	那賀高祭文化祭での防災に関する展示とアルファ米試食コーナーの設置
11月30日	防災那賀よしキャンプV、災害用炊飯袋を使用した防災食作り 国土交通省那賀川河川事務所による出前講座
11月～	防災食レシピ動画作り
12月22日	防災まつりへの参加
1月19日	那賀町ボランティアのついで(相生地区)での防災食づくり
1月22日	令和元年度徳島県まなぼうさい活動賞表彰式
2月22日	那賀高校防災新聞発行

令和元年度 森林・林業専攻高校生国際交流研修会 (インドネシア研修)

令和2年1月25日(木)～2月1日(木)の間、23HRの渡越翔也くんが、国土緑化推進機構が主催する、令和元年度森林・林業専攻高校生国際交流研修会に参加し、インドネシアの林業を学ぶとともに、国際交流を深めました。

まず、首都ジャカルタに着くと、気温30℃に近い熱帯特有の蒸し暑さを肌で感じました。スカブミに在るオイスカ研修センターでは植樹活動に始まり、トマト苗定植やトウガラシ収穫などの農業体験を行いました。また、スカブミ第一高校では、アイドル級の歓迎をいただき、さらに、生徒会長のRezaくん宅でホームステイも経験しました。日本語交流授業では、シャボン玉や折り紙などの日本文化を紹介しました。ジョグジャカルタでは、wanagama演習林を見学したり、仏教遺跡の世界遺産であるポロブドゥール遺跡の観光をしたりしました。

初めてづくしの1週間は、現地での一挙手一投足が何事にも代えがたい経験となりました。

★渡越くんより

1番印象に残っているのは、スカブミでのホームステイです。地元の方々と楽しく過ごせたことが、とても良い経験となりました。



服活

(不要となった衣服に第二の活用場を与え、新たな息吹を吹き込む活動)

6月30日(日)、もみじ川温泉で行われた「あららぎ工房チャリティイベント」や、9月28日(木)に実施された本校文化祭、11月10日(日)に阿南駅前で行われた「あなんまちマルシェ」にて出店しました。特に「あなんまちマルシェ」では多くの来場者に恵まれ、342着を譲渡しました。また、夏物の残余衣服の一部を「古着deフクチン」に寄付しました。「古着deフクチン」は、一口につき5人分のポリオフクチンが寄付され、衣類の選別作業や古着の販売などの雇用促進にもつながります。まだ着用できる服を誰かのために使うことができました。



若鮎寮 送別会 & 卒業式

1月30日(木)、若鮎寮にて、卒業を控えた男子10名、女子3名の送別会が行われました。共同生活の中で築いてきた若鮎寮・竜峰寮生の「絆」がさらに深まり、心に残る送別会となりました。また、2月29日(木)には、卒業式が行われました。新寮生からは卒業生へ、3年生からは調理員さんや舎監の先生への感謝の言葉が贈られ、最後には、在校生から記念品が贈呈されました。今後は、新3年生が中心となり、受け継いできた若鮎寮・竜峰寮の良き伝統をしっかり引き継いでいきます。



カヌー部

東京2020オリンピック聖火リレーグループランナー決定!!



徳島ホストタウン特使として、ドイツとのカヌー交流の活動が認められ、カヌー部が聖火リレーグループランナーに内定しました。カヌー部から代表6名が4月17日(金)にランナーとして走行する予定です。

《2年生》

中田 隆真 (男子カナディアン)

カヌーを通して互いの文化への理解を深めることができました。スポーツを通じて世界が平和になってほしいとの思いを込めて走ります。

仲道 千晃 (男子カヤック)

オリンピック選手の漕ぎを間近で体感でき、オリンピックがより身近な存在になりました。この感動を胸に、オリンピックの成功を願い走ります。

笹田 采汐 (女子カヤック)

オリ・パラの選手やコーチから指導を受けることができました。より身近に感じようになったオリンピックを更に盛り上げるために走ります。

《1年生》

西 達矢 (男子カナディアン)

ドイツ選手の技術力の高さは、日々の練習の賜物だと痛感しました。カヌーへの情熱を抱いて練習に励み、オリンピックの発展のために走ります。

川田 星那 (男子カヤック)

ドイツへ行き、オリンピック選手を輩出した環境で練習できたことが思い出です。カヌーへの熱い思いを込めて、更なる交流が深まることを願い走ります。

拝宮和紙 卒業証書作成



本校は、平成28年度の森林クリエイト科開設当初より、旧上那賀町拝宮地区に伝承されている「拝宮和紙」についての学習をしています。その成果として、1期生が卒業を迎えた昨年度から、卒業証書制作の取組をスタートさせました。本年度も12月に、普通科・森林クリエイト科3年生全員が紙漉き実習を行い、世界で1枚だけのオリジナル証書を作成しました。丹生谷の自然の恵みと、思い出の詰まった卒業証書を手し、新たな進路先で活躍してくれることを願っています。



*佳作
新友が親友となり心友に
(11HR 中野愛佳理)

*入選
死んだふり
ジリリと
鳴いて
すくばれる
死んだふり
死んだふり

◆青春川柳 (四国大学主催)

◆あひる駅伝大会
2月2日(日)第14回あひる駅伝大会が相生林業ビジネスセンターで開催されました。企業チームや近隣の小学生が参加する中、本校からは、硬式野球部・カヌー部・バドミントン部が出場しました。一般の部において、硬式野球部Aチームが昨年に続き優勝しました。全5区間中、1区は陸野勝梧君(22HR)、2区は竹内偉織君(12HR)、3区は岸田大吾君(13HR)が区間賞を受賞しました。穏やかな天候の中、全員が完走できました。



さくら団地リノベーション

徳島県商工労働観光部産業人材育成センターの協力の下、藍住町で行われている「徳島版マイスター制度ステップアップ事業」に参加し、さくら団地のリノベーションに取り組みました。1回目はウッドデッキの製作を行い、2回目は、本校の製材実習棟で木材の加工をご指導いただき、3回目は室内のリノベーションを行いました。自分たちで伐った原木を加工し、利用される現場を実際に見て体験することで、校内での林業学習の深化と、木材の流通を理解することができました。ご指導いただいた坂本さんからは、手工具の使い方を始め、作業の一つ一つを丁寧に教えていただきました。生徒たちも作業の内容を理解し、分からないところは質問をしながら積極的に取り組み、職人の技術や仕事に対する思いを学び、職業観の育成につなげることができました。

